

東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る  
関係府省庁等連絡会議(第3回)

議事概要

1. 日時：平成27年9月2日(水) 8:00~8:15

2. 場所：内閣府本府3階特別会議室

3. 出席者：

<国>

遠藤 利明	東京オリンピック・パラリンピック大臣
平田 竹男	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局長(座長)
岡西 康博	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局企画・推進統括官
松本 英三	内閣府審議官(科学技術・イノベーション担当)
熊埜御堂 武敬	消防庁審議官
水嶋 光一	外務省大臣官房報道・広報・文化交流担当参事官 ※代理出席
森 晃憲	文部科学省大臣官房審議官(研究開発局担当)
白間 竜一郎	文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ・青少年総括官
福島 靖正	厚生労働省大臣官房審議官(医政担当)(老健局、保険局、健康局併任) ※代理出席
鈴木 良典	農林水産省大臣官房生産振興審議官
前田 泰宏	経済産業省大臣官房審議官(商務情報政策局担当)
五十嵐 崇博	国土交通省官房審議官(道路局担当)
山口 裕視	観光庁次長
渡邊 良	気象庁総務部長
早水 輝好	環境省大臣官房審議官(水・大気環境局、放射性物質汚染対策担当)
立川 裕隆	環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課長 ※代理出席
<東京都>	
小川 謙司	東京都環境局都市エネルギー推進担当部長 ※代理出席
花井 徹夫	東京都オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長
<組織委員会>	
新田見 慎一	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 国際渉外・スポーツ局スポーツ担当部長 ※代理出席
杉浦 久弘	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 大会準備運営局長
福島 七郎	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会場整備局長
廣瀬 隆正	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 施設整備調整局長

4. 議事要旨

・冒頭、遠藤東京オリンピック・パラリンピック大臣より挨拶。

## 【遠藤大臣】

朝早い中、「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る関係府省庁等連絡会議」にご出席頂き感謝申し上げます。今年の夏は、東京都心で、記録としては過去最長となる8日連続の猛暑日が続くなど、非常に暑さが厳しい日が続いた。また、消防庁の発表によると、本年7月に全国で熱中症により救急搬送された人数は、7月の搬送者数としては最多となる2万4567人となったうえ、8月には更に増加していると承知をしている。そのため、2020年大会に向けた暑さ対策に関して、国民の関心も非常に高くなっている。政府としては、本日の議題である「暑さ対策に係る中間とりまとめ」を行い、国、組織委員会や東京都がしっかり連携し、対策をパッケージとして着実に推進していくことが重要と考えている。新国立競技場については、1550億円と決定した中で、コスト抑制の観点から、従来案から大幅な見直しを行った結果、冷暖房装置の設置については見送ることとなったが、それに代わる救護室や医療体制の整備、観客の皆さんに対する情報発信などの取組みがより重要と考えてそのような形とした。また、大会の運営面においても、大会当日に観客への冷却グッズの提供を検討するなど、しっかりと取組をしまいたい。いずれにせよ、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、観客が快適に観戦できる環境整備を着実に進めてまいりたい。引き続き、本連絡会議への御協力・御支援をよろしくお願い申し上げます。

・事務局より、資料1に基づき、「(1) 関係府省庁等連絡会議の設置について」について説明。

第1回、第2回の連絡会議は各省の合意に基づき設置したものだが、最近の暑さ対策の重要性が増していることから、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係府省庁連絡会議の議長である杉田副長官の決定として、正式な会議体として設置することとなった。今回から新たに外務省、農林水産省、観光庁にもメンバーに加わってもらった。

・事務局より、資料2-1に基づき、「(2) 東京2020に向けたアスリート、観客等の暑さ対策に係る中間とりまとめ(案)について」について説明。

各構成員から特段の意見なく、中間とりまとめについて了承される。

・意見交換

## 【組織委員会大会準備運営局長】

この度、関係府省庁等で中間とりまとめを策定し、支援体制を作っていただき感謝申し上げます。すでに中間とりまとめに盛り込んでいただいているが、改めて組織委員会から4点お願いをしたい。1点目は、「街づくりにおける暑さ対策」。新国立競技場はもちろんのこと、それ以外の競技会場、その周辺、マラソンコースの沿道等についても、広く横串を刺して2020年までに集中して対策を進めていただきたい。2点目は、2020年大会における「選手や観客への医療体制の構築」。救急車等の配備、飲料水、氷等の確保等についても色々考えていきたい。3点目が、効率的な大会運営を行うためにも気象予測、観測等の技術活用をお願いしたい。4点目としては、国内外、特に海外への情報提供等も是非お願いしたい。この4点を改めてお願い申し上げます。

**【内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長】**

このアスリート・観客の暑さ対策に係る関係府省庁等連絡会議は、暑くない時から検討を始めたが、実際に暑い夏を迎えると、こういった対策を各府省庁等と長い時間をかけて対策を練りあげてきてよかったと実感している。暑さ対策は2020年に向けた大事な対策の一つと思うので、引き続きよろしく願いしたい。特に熱中症という概念を英訳したところでうまく伝わらないこともあり、日本人が記録的にたくさん救急搬送される中で、外国人に対してもきちっと対応しなければならない喫緊の課題と考えている。予算を取れば問題が解決するというわけではなく、英知を結集して日本人や障害者、外国人に対して具体的な施策を行っていきたいと思うので、関係省庁、東京都、組織委員会には更なるご協力をお願いしたい。

・閉会